

# 空間占拠とコミュニケーションの思想

学館運営委員会企画 BUND

5月30日 AM11:00 1番教室

シンポジウム 針生一郎 (評論家)  
小野二郎 (明大助教授)  
秋田明大 (日大全共闘議長)  
宮下精一 (司会)

過去2, 3年にわたる時代のなかで、鋭く追及され、否定されるべき対象として措定されたのは、他ならぬ「既成」の共同体であった。資本制分業生産様式その過程に於て、イデオロギイとして、かかる体制を維持し、包摂してきた「幻想としての国家」であり、「幻想としての大学」であり、これら「幻想にすぎぬ共同体」であった。

そして、かかる諸々の共同体の崩壊過程をすでに過去の遺物として彼方に追いやった我々は、今日、新たな政治の季節を迎えんとしている。だが、すぐれて政治過程の課題として、思想的、物理的にトータルな形で、いわば階級対立の一層の激化せんとしている現在、はたして、これを強く支える思想過程に於けるところの原初的なエネルギーとなり、そして不断の拡大再生産を保証しうだけの「共同体」を、あるいは「共同体理念」をも構築しえただろうか。ここで我々は、すでに語られることの少なくなった「占拠空間-共同体=コミュニケーションの形成」過程を、再度把握してゆく必要がある。切迫しつつある過渡期社会内部に於ける階級情勢。その政治革命レベルに正しく裏付けられ、認識論、意志論、そして権力論の視点をも取りこんだコミュニケーションの構造を明らかにし、形成を急ぐ必要がある。かかる認識にもとづくコミュニケーションとは、たとえば、数年におよぶ全共闘運動に象徴される思想過程を、止揚する媒介として定立せられるだろう。「直接民主主義形態」、あるいは「自主管理思想」として諸領域におよぶ権力体系を弾劾し、一定程度の運動を《反大学-自主講座》運動として労働者、学生、市民社会内部に鋭く提出し、形成しえた《コミュニケーション=共同体》理念は、しかしながら昨年に於けるブルジョア国家体制の熾烈な攻勢の前に新たな疑問を提起せざるを得なくしている。かかる根底には、権力奪取としての政治革命闘争と同時平行的に運動を展開してきた《反大学-自主講座》運動が、その社会革命的思想を払拭、止揚しきれぬまま、《コミュニケーション=共同体》理念を即自的に取り込んできた、という一点の限界性を所有しているからであろう。

今日に至るまで、資本主義的生産様式の発展過程に於ける権力形態の分化、有機的結合、即ち

《政治-イデオロギイ領域》に《経済的領域》にと、諸領域に於て権力構造を複雑に呈してきた国家体系に、階級関係レベルで我々が立ち向かう時、これらの権力構造の明確な認識にもとずかして、一切の運動、闘争は確立しえないと考える。すなわち、我々の今、提起しなければならぬ問題とは、占拠空間、コミュニケーションの理念を、明確に国家体系の下における理念=国家意志、政治領域、経済的領域における権力構造の認識の上に相定させしめなければならぬ事に他ならない。ここに階級意志に強く支えられた占拠の空間、コミュニケーション=共同体の開花、存在が保証されるということに他ならない。学館運営委員会は、かかる認識の下に、すべてのサークル員、闘争委員会の諸君と、新たな空間を創出してゆくことを約束する。

楽しい  
くらしのショッピング



本店 463-0111



東横店 463-0111 日本橋店 211-0511

本店・東横店45年秋  
増築完成予定



**東急**  
(木曜定休)